



留萌港への貨物船もやがて大型化へ

外材の輸入、大型船の入港に備え 港湾の近代化をはかる

第3次留萌港整備
5カ年計画(43—47年)

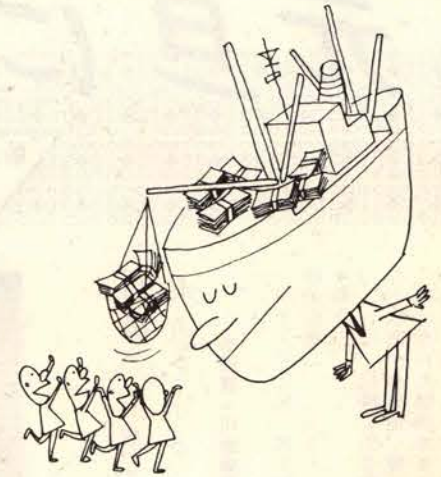
②海上コンテナ輸送の本格化、ならびに外貿埠頭公団の設立に伴う主要外貿定期船整備の全面的検討の必要。

①経済社会の発展に伴ないそれにあわせて港湾整備が進められなければならない。つまり、その理由としてあげられるものは、
①経済社会の発展に伴ないそれにあわせて港湾整備が進められなければならない。つまり、その理由としてあげられるものは、

全国的にみて現在の港湾整備五カ年計画(昭和四十年八月閣議決定)は、昭和四十二年で三カ年を経過、全体計画の半分を終わつた。しかし、現計画は、三十九年度を初年度とする五カ年計画として策定作業を行なつたものにとり、その後毎年度、要求の時に若干な修正を求められて来た。四十二年の全面的な取崩しにより、計画の修正追加という形で進められて来た。しかし、最近の経済発展の動きからみて、すでに現在の計画では、港湾貨物の伸びに対応できないとして、抜本的な計画の改訂が必要とされたためである。つまり、その理由としてあげられるものは、

経済発展の中で 効率のよい港に

道北の貿易港として、期待がかけられている留萌港は、現在まで急速な整備が続けられて来た。しかし、最近の経済発展にあわせて整備をするために「第三次港湾整備五カ年計画」が、新たに樹てられ、すでに運輸省の認可を得たため、大蔵省の査定をまつて、四十三年度、つまり本年から進められようとしている。



留萌港から道北各地に富が届けられる

道北各地も留 萌港に期待

留萌港は、全道七重要港の一つとして、広大な道北を経済圏に持ち、急速な発展を続け、いまや、道北開発に於ける重要な役割りを課せられている。つまり、道北の中心都市としての旭川市の経済発展には、留萌港を考への中に入れて計画が樹てられている。それは、道北経済圏への

大型船に備え た改訂計画

このような中で、とくに留萌港の整備にあたり改訂の必要は、
①船舶の大型化、専用船化ならびに内航海運の近代化、合理化などに対処する、けい留施設、航路水深など、施設計画の修正つまり、北空知炭田、天北炭田を主軸とする石炭の積出しが、南岸石炭積込施設の増強などにより非常に伸び、昭和四十七年には約二百五十万トンに達すると推定される。ことに、留萌港から積出されている北空知炭田の石炭は、製鉄用の原料炭で、将来にわたって需要は増大

③船舶の大型化、専用船ならびに内航海運の近代化、合理化などに対処する、けい留施設、航路水深など、施設計画の修正
④最近の予想を上回る港湾取扱貨物量の増加に対応する施設増強の必要。
⑤海難事故防止、なかでも危険物輸送による港内保安の措置。
⑥港湾労働供給の逼迫に対処する荷役合理化の促進
⑦最近における都市化の急激な進展に伴う大都市圏港湾整備の検討。

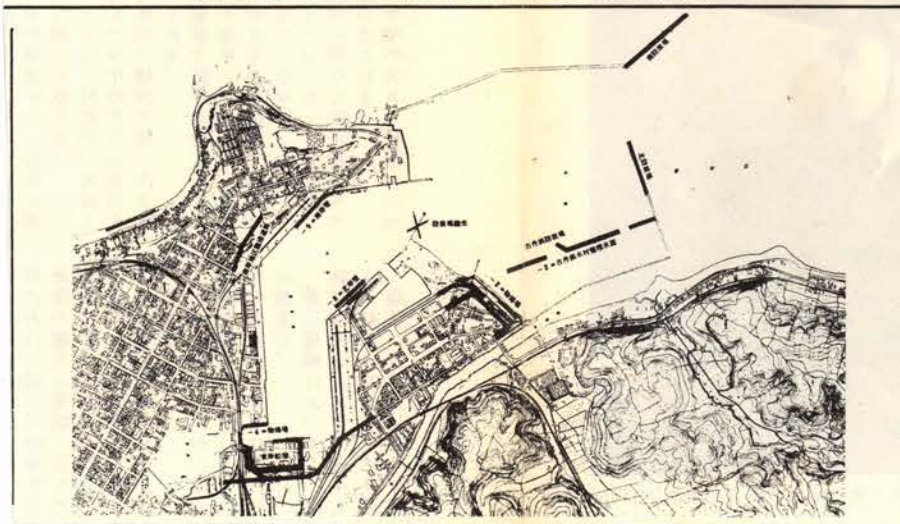
③船舶の大型化、専用船ならびに内航海運の近代化、合理化などに対処する、港湾、航路水深など施設計画の修正。
④最近の予想を上回る港湾取扱貨物量の増加に対応する施設増強の必要。
⑤海難事故防止、なかでも危険物輸送による港内保安の措置。
⑥港湾労働供給の逼迫に対処する荷役合理化の促進
⑦最近における都市化の急激な進展に伴う大都市圏港湾整備の検討。

物資輸送は、留萌港を利用した方が、非常に運賃が安い、ということなどからである。
このような背景の中で、計画終了年の四十七年には約三百二十八万トンの貨物取扱量が見込まれ、四十一年に比較し四〇%の伸びが予想され、四十三年度から進められる第三次整備計画に大きな期待がかけられている。

- ②また、雑貨関係では、けい留施設として、水深八m、北岸B岸壁水深八m、延長百四十五mを、同じ理由で、水深九m、延長百六十五mに計画を変更した。
- ③東岸船溜を、現計画で水深四m、一万一千mを、水深四m、二万六千mに計画変更した。さらに、漁獲物の荷揚げ出漁準備の円滑化をはかるため埠頭用地約四千五百m²を追加、沖合埠頭の大型化、入会漁船の増加、ならびに漁田開発の促進に備える。
- ④大型貨物船などの出入港に備え、航路しゅんじょう、水深九m、二十二丁を追加する。
- ⑤さらに、出入港船舶の安全操船をはかるため、東防波堤を撤去することを新たに追加。
- ⑥最近、外材取扱量が、年々増加し、現在の施設だけでは処理出来ないのを早急に、木材取扱施設を整備する。つまり、古丹浜木材整理水面の防波堤二百五十五mを三百m追加する。さらに、古丹浜物揚場として、水深二m、延長百二十m、鉄道七百二十m埠頭用地整備約一万三千二百m²を追加する。また、北防波堤百mを二百mに変更、北防波堤のかさ上げ二百六十・七mを追加する。
- ⑦南岸地区の雑貨取扱施設の機能を増強するため、中九m、延長二百三十二mの道路造成を追加している。

なお、この留萌港第三次港湾整備五カ年計画には、総額四十二億二千二百三十七万円の費用が投じられるが、そのほとんどは、国費あるいは国庫補助などによってまかなわれる(これ等公共事業のうち市費は二億八千万円でほか起債事業として約四億円が計上されている)。

東岸船溜、古丹浜木材貯木場など新設(5年後の留萌港)



道北の海の門戸として、留萌港の役割は大きい(現在の留萌港)

